

草のみどり

5

Kusa no Midori

Cover 桜と多摩キャンパス

特集 | 中央大学父母連絡会へようこそ

父母懇談会開催のお知らせ

2025年度卒業式 / 2026年度入学式

FRONTLINE 基幹理工学部・社会理工学部・先進理工学部 | 理工の中央から広がる3学部

父母のための中大ガイド / 2026 CAMPUS CALENDAR

中央大学父母連絡会 からのお知らせ

新入生のご父母の皆さま、ご子女のご入学おめでとうございます。
また、在学生のご父母の皆さまには平素より父母連絡会の活動にご協力賜り厚く御礼申し上げます。

父母懇談会の開催について

全国で父母懇談会を開催します。大学の近況や支援体制、最近の進路就職についての講演を行います。

個人相談や懇親会もございますので、ぜひご参加ください。日程や申込方法など詳細は P.8～P.11 をご参照ください。

支部総会の開催について

2026 年度は支部総会資料を電子媒体への掲載という形をとることといたします。支部総会各議案の承認可否については、Web 回答方式といたします。

支部総会資料は 7 月 1 日 (水) から 7 月 10 日 (金) までの期間、支部ごとに電子媒体に掲載いたしますので、ご確認くださいませよう願います。

※詳細につきましては「草のみどり 7 月号」に掲載いたしますので、ご確認ください。

機関誌「草のみどり」電子版のお知らせ

父母連絡会機関誌をより多くの皆さまに便利にご覧いただけるよう、電子版をご提供しております。これにより、紙媒体に加えて、スマートフォンや PC から機関誌を手軽にご覧いただけます。

■ 閲覧方法

- ① URL、QR コードより「草のみどり」
電子版にアクセスしてください。



<https://www.chuofuboren.jp/kusanomidori355>

- ② ID・パスワードを入力してください。
ID : chuo PW : fubo2026



※電子版は無料でご利用いただけますが、閲覧にかかる通信料等はご負担いただきます。

※電子版の閲覧期間は 1 年間で予定しております。

※電子版の閲覧期間は予告なく変更することがあります。

メール配信システムについて

父母連絡会では、地域支部実施イベントや大学の近況・大学実施イベントなどをご案内するメール配信システムを導入しています。メール配信をご希望の方は、以下の QR コードまたは URL よりメールアドレスをご登録ください。ご登録いただきましたら、ご入力いただいたメールアドレス宛に「info-mail@chuo-u-fuboren.jp」より登録完了メールが届きますので、誤りがないかご確認ください。

ご登録にはご子女のお名前、生年月日、学籍番号などのご入力が必要となります。学籍番号は「草のみどり」5 月号の宛名に記載の 11 桁の英数字 (例：2026 年度入学生の場合、26 から始まる 11 桁の英数字) です。誤りのないようご入力ください。ご登録いただきましたメールアドレスは、父母連絡会事務局からの各種ご案内以外の目的には使用いたしません。また、ご子女ご卒業後は自動的にメール配信システムの登録が解除されますので、ご自身の解除手続きは不要です。

注1. キャリアメールをご登録いただいている方において、受信拒否が自動設定されている場合がございます。ご確認のうえ、「info-mail@chuo-u-fuboren.jp」を受信リストに追加いただき、メールを受信できるよう設定ください。また、「icloud.com」は推奨していませんので、別のメールアドレスでの登録をご検討ください。

注2. ご登録完了後、数日経っても登録完了メールが届かない場合は、ご登録いただいたメールアドレスが誤っている、または、迷惑メールフォルダに入っている、受信拒否が自動設定されている可能性があります。その場合は、再度登録手続きをとってください。なお、ご登録手続きの際に「既に登録されています」と表示される場合は、注1 の手続き後、一度登録を解除いただいたうえで再度登録ください。

注3. 学籍番号が誤っていた場合、ご登録完了メールは届きますが、その後のメールが配信されませんので、誤りがないようご注意ください。なお、学籍番号を誤って登録してしまった場合は、登録完了メール下部に記載の配信停止用 URL、または、下記 QR コードより一度登録を解除いただいたうえで、再度登録ください。

注4. ご登録メールアドレスを変更する場合、一度登録を解除いただいたうえで、再度登録ください。

▶メール配信システムについて

https://www.chuo-u.ac.jp/visitor_parent/parents_association/news/2026/04/85199/



▶ご登録はこちらから

https://j.bmb.jp/bm/p/f/ff.php?id=lion_pjt&task=regist



▶登録解除はこちらから

https://j.bmb.jp/bm/p/f/ff.php?id=lion_pjt&task=cancel



FACULTY OF GLOBAL MANAGEMENT

世界を人に動かす Vol. 37

企業経営とグローバル経済の先端知識、優れたコミュニケーション能力を養うべく、国際経営学部生は前進を続けています。



国際経営学部国際経営学科4年
東京都立豊多摩高等学校出身

よしだ ひびき
吉田 響

グローバルな共通言語を求めて — 公認会計士試験への挑戦

にある専門性やスキルで競争に挑もうとする姿に、私は強い衝撃を受けました。国際的な舞台においてはただ英語ができるだけでは、立ち向かうことはできないと痛感したのを今でも鮮明に覚えています。

そんな中、私の指針となったのがホストファザーの存在でした。彼は会計コンサルタントとして、数字というビジネスの共通言語を駆使し、企業の意思決定を支えていました。数字は国境を越えて企業の真実を語るという彼から教わった会計の奥深さは、当時の私にとって希望となりました。英語という道具に、会計という専門知識を掛け合わせることをめざそうと決めた時が、私が日本を飛び越えて世界で活躍する公認会計士を志す原点です。

炎の塔での勉強の日々

中央大学国際経営学部に入学後、私の挑戦はすぐに始まりました。まずは独学で日商簿記検定3級を取得し、その後、

より高度な専門性を身につけるため、学内の経理研究所の公認会計士講座に申し込みました。公認会計士試験の学習拠点となったのは、中央大学の象徴とも言える「炎の塔」です。選抜試験を経て上級コースに入ると、そこには自分専用の自習席とロッカーが与えられます。周囲を見渡せば、同じ志を持つ受講生たちが勉強に励んでいるという環境で学習を始めました。

挫折から学んだ習慣の力

しかし、道は決して平坦ではありませんでした。1年生の11月までに簿記2級・1級の基礎を固め、公認会計士試験への勉強を始めました。この試験は、マークシート式の短答式試験と記述式の論文式試験に分かれています。会計学や監査論、法律の知識を問われる短答式試験という第一関門で、私は最初の大きな挫折を味わいます

当時の私は、膨大な試験範囲を終わらせることに必死になり過ぎていました。合格が目的ではなく、テキストを読み進めることが目的になっていたので。結果、知識は表面的なものに留まり、模擬試験の成績は低迷。1回目の短答式試験は、不合格という厳しい結果に終わりました。

落ち込んでいた私を救ってくれたのは、経理研究所でスタッフとして指導してくださった先輩でした。勉強方法についてアドバイスをもらい、私は勉強法を根本から見直しました。まず着手したのは徹底的な基礎固めと習慣化です。モチベーションという不確かなものに頼らず、毎日、決まった時間の帰りの電車に乗るまで勉強することをルーティーンにしました。また、間違えた問題を単に解き直すだけでなく、なぜ間違えたのか、どうすればミスを防げたのかをスプレッドシートに細かく記録しました。昨日できなかったことを、今日できるようにするということ、今日できるようにするという積み重ねが自信へと変わり、2回目の挑戦では、驚くほど冷静に試験に臨むことができました。合格通知を手にした時、努力の方向は正しかったと安堵したことを覚えています。

最後の関門、論文式試験への挑戦

短答式試験を突破した先に待っていた

公認会計士を志した原体験

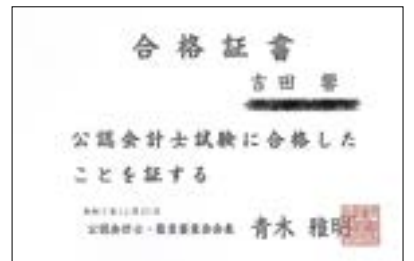
私が公認会計士という職業を志したのは、高校時代に経験したカナダでの留学がきっかけでした。当時、私は「英語さえできれば世界で活躍できる」という漠然とした憧れを抱いて海を渡りました。しかし、そこで待ち受けていたのは、想像を絶する現実でした。現地の高校では、世界中から集まった同世代の若者たちが、みずからの足を人生を切り拓こうと必死に机に向かっていました。彼らにとって英語はあくまで生活の道具であり、その先



会計士試験で使用した教材の数々



中央大学主催の合格祝賀会



公認会計士試験の合格証書

のは、記述形式の論文式試験でした。新たに経営学と租税法といった科目が増え、より深く、多角的な思考が求められます。特に苦労したのは、勉強の時間管理の難しさです。各科目少なくとも2時間という限られた時間の中で、どの問題に時間を割き、どの問題を捨てるか。その戦略が可否を分けます。当初は記述の精度にこだわりすぎて時間切れになることが多く、答練（練習試験）の順位も下位に沈みました。

そこで、講師のアドバイスを受けて、毎週末に行われる答練を本番と同じような状況を想定して受けることを心掛けました。また、通学の電車内でもテキストを読み込み、時間を有効活用して知識を暗記していききました。迎えた本番当日では、最初の科目では、あまりの緊張にペンを持つ手が震えました。しかし、これまで炎の塔で過ごした時間と習慣化して

きたリズムが私を支えてくれました。いつも通りのペースで問題に向き合おうと自分に言い聞かせ、最後の一文まで書き切ることができました。無事に論文式試験に合格することができました。

将来に向けた一歩目として

現在、私は内定をいただいた監査法人でアルバイトとして働いています。これまでテキストの中で見てきた理論が、実際の企業の取引として目の前に表れ、学びが実務とつながる興味深さに喜びを実感しています。公認会計士試験は、確かに過酷な試験でした。しかし、この経験を通じて得たのは専門知識だけではなく、自分を律する力、困難に直面した際の分析力、そして何より、目標に向かって突き進む意志の力も獲得できました。

中央大学には炎の塔を含め、将来の目

学部だより

ガクチカって何ですか？

なかむら じゅん
中村 潤 国際経営学部教授

先日、NewsPicksの衝撃的なニュース・タイトルに目が留まりました。「データ解説：Z世代の学力が、ぶっ壊れている」。要は、AI依存やSNS中毒などにより、生きている幸福度、注意力、睡眠時間のすべてが崩壊し、学力も読書量も集中力も低下していることをデータに基づき解説する内容でした。

一方で、就活の早期化はやまず、何かと慌ただしくなり、早くは3年生の夏頃から活動を始めるようです。大変な時代となったわけですが、学生の皆さんは、何をガクチカで主張されるのでしょうか。リクルート社の調査では、企業が採用基準で重視する項目と学生側が面接等でアピールする項目に、大きなギャップがあることが指摘されました。企業側は「熱意」や「学力」を重視する一方で、学生は「アルバイト経験」や「サークル」をアピールする。やはり、当たり前ですが本業は学業なんですね。成績がよいということは、不得意科目をも克服した証であり、仕事のポテンシャルもあるだろうから採用しよう、ということなんだと思います。



大学での学びは一定の専門性が求められているものの、私はそもそもの「学び方」が大事ではないか、それは汎用的な思考技術、いわゆるロジカルシンキングや問題発見のスキルが求められているのではないかと思うのです。商店街でにぎやかだったお店が、いつのまにか閉店。漫然と歩いていたらスルーしてしまうところを、「あれ？ どうして閉店したんだろう」と疑問をもてば「問い」が生まれます。そして、その「問い」に対して、「なぜなんだろう？」「私だったらあのお店をこんな感じで経営するだろう」と論理的な思考で問題解決すべく思いを巡らす。これだけでも脳みそは活性化します。結果として、地頭も鍛えられるでしょう。「君の発想、魅力的だね」「うちに来ないか」という言葉に期待をしつつ、一度、いや、習慣としてお試しあれ。



4期生と沖縄でのホエールウォッチング

標に向かって挑戦する環境が整っています。その中でも、国際経営学部には多種多様なバックグラウンドを持つ学生がおり、それぞれがそれぞれの道で努力する

姿を目の当たりにできます。そのような仲間たちから刺激を受け、切磋琢磨できる恵まれた環境を最大限に活かし、卒業までの1年間を過ごしていきたいです。

